

薬学・科学に用いられる英単語の  
接頭語に関する基本的検討

牧

純

---

松 山 大 学  
言語文化研究 第32巻第1-2号 (抜刷)  
2012年9月

Matsuyama University  
Studies in Language and Literature  
Vol. 32 No. 1-2 September 2012

# 薬学・科学に用いられる英単語の 接頭語に関する基本的検討

|   |   |   |                     |
|---|---|---|---------------------|
| 牧 |   |   | 純 <sup>*)</sup>     |
| 玉 | 井 | 栄 | 治 <sup>*)</sup>     |
| 関 | 谷 | 洋 | 志 <sup>*)</sup>     |
| 田 | 邊 | 知 | 孝 <sup>**)</sup>    |
| 舟 | 橋 | 達 | 也 <sup>**)</sup>    |
| 古 | 川 | 美 | 子 <sup>***)</sup>   |
| 野 | 元 |   | 裕 <sup>****)</sup>  |
| 河 | 瀬 | 雅 | 美 <sup>*****)</sup> |
| 坂 | 上 |   | 宏 <sup>*****)</sup> |

## 要 約

A～Zではじまる接頭語を示し、おのおの例を掲げることで、薬学、歯科の教養教育に役立つ論文を仕上げた。比較的専門的な用語が多いが、新入生に親しんでもらう目的で一般的で分かりやすい英単語も取り入れてある。新入生たちの科学英語の授業に用いて、彼らの英語に対する親しみが増すことになれば、この試みは成功と考える。

- 
- \*) 松山大学薬学部生体環境系薬学講座感染症学研究室
  - \*\* ) 松山大学薬学部生体環境系薬学講座衛生化学研究室
  - \*\*\* ) 松山大学薬学部医療系薬学講座薬理学研究室
  - \*\*\*\* ) 松山大学薬学部生物系薬学講座生化学研究室
  - \*\*\*\*\* ) 松山大学薬学部化学系薬学講座有機化学研究室
  - \*\*\*\*\* ) 明海大学歯学部病態診断治療学講座薬理学分野

## はじめに

筆者らは医療系の学部教育、なかでも薬学生・歯学生の英語教育に高い関心を示してきたが、常日頃いろいろな状況下で学生たちからある種の“苦情”を耳にする。例えば、科学・薬学英语教育、ゼミ、卒業研究指導の現場において、彼らから“英単語が覚えられない”との声を繰り返し聞くことである。どうしたら改善されるかをいつも考えてきた。

英単語の接頭語に関する研究は少なくないし、素晴らしい名著の数々も出版されているが、文科系・言語系所属の先生方による取り組みが多い。

そのような中で、極めて参考となるテキストのことを思い出した。北里大学医学部（本論文の筆者のひとり牧 純の前任校）で医学英語教育を担当される泌尿器科医横田眞二は接頭語・接尾語の基本をしっかりと教え込むことだと説く毎週であった。多々教わる内容が長年積み重なった。しかしその内容は当然ながら医学分野が中心であった。現在の所属と教育上の立場を考えると、薬学・科学用語の接頭語を中心に検討した論文を著すことが望ましいと思えるようになった。

本論文の目的は英単語の接頭語を網羅することではない。接頭語から薬学系・科学系を中心とした科学英単語に入っていくと、専門の単語に馴染みやすいこと、記憶の助けとなることを多様な例を通して学生たちに十分知ってもらうことが目的である。ここに、とりあえず纏めてみることで、語学教育に長年携わっていらっしゃる先生方はじめ諸賢のご意見、助言を賜り、拙論を修正し、授業の改善を図ることが出来れば幸甚と考え、あえてここに発表する次第である。

## 材料・方法

種々の資料<sup>1-12)</sup>を参考にして今回の論文をまとめた。AからZで始まる英単語の接頭語では、各幾つかの接頭語を選んだ。語例にはどこまでが接頭語であ

るかを示すため、あえてハイフンを入れた語もある。よく使われる語彙として定着しているものを中心に述べたが、医学英和辞典<sup>1)</sup>、定評ある医学用語語源テキスト、とりわけ横田眞二著<sup>2)</sup>、英和大辞典<sup>3)</sup>、研究書<sup>5)</sup> それに化学大辞典<sup>6)</sup> は常に参考とした。できるだけ薬学や薬物に直接関係した英単語を選んだが、中には関連する医学・化学・科学の単語もある。さらにところどころ一般的な英単語に関しての接頭語も加えた。学生の授業での理解に役立つと期待したからである。各の接頭語の例として述べる英単語は原則としてアルファベット順にしたが、説明の都合上その順番通りになっていないところもある。

## 結果・考察

### A

#### a- (“中” など状態を添える接頭語)

教えている学生たちはこれをあまり意識していないように思われる。

**asleep** 就眠中, 例えば例文で *He is asleep.* (彼は就眠中だ), これを学生に示したい。

**apart** 離れて, **apart from** で馴染みがある。

#### a- (“無い” 意味の接頭語)

理系学生にも是非知っておいてもらいたい接頭語である。

科学用語も一般用語も次のような単語が直ちに思い浮かぶ。

**abasic site** (塩基のない部位)

**amastigote** 無鞭毛期 (寄生原虫トリパノゾーマ, リーシュマニアの増殖段階の1時期のことで実際鞭毛を欠く)

**amoral** 不道德

**amorpha** 形状なし

**asexual** 無性生殖

**atheist** 無神論者

**Amazon** 昔ヨーロッパからの入植者たちが南米アマゾンで勇敢に戦う女傑たちの様態を *Amazon* というようになったと伝えられる。弓を引きにくいので胸部を除去していたと風説が広まった。もっともらしい語源説明のようだ。しかし、これは言語学者に認められない民間語源説ともされる。

へんとうせん(扁桃腺)の民間語源説“返答せん”も同じような部類というよりは、こちらの方はむしろ駄洒落の類である。**history**の語源を **his story** と解釈するのも面白おかしさを期待してのものであろう。

**ab-** (“離”の意味の接頭語)

**abduct** は拉致、誘拐が一般的な意味合いであるが、医学専門用語では「外転」である。

**acro-** (“端”を意味する接頭語)

**acrosome** 精子の頭部にあるリソソーム。

**acronym** 頭字語いくつかの単語の頭文字を連ねた、ちょうどひとつのような単語(例えば、**Japan Air Line**を**JAL**というように)をさすと是非学生に教えたい。

**ad-** (“向かい”, “傍ら”強調などの意味合いの接頭語)

**adverb** (副詞)は、動詞に向かって修飾することから、語源が理解できる。

**address** (演説, 住所)はあるものに向かうことから理解できる。演説と住所は全く別のものであるように思われるが、これで根本的な共通項のあることに納得がゆく。

**adduce** (例証する)が知られているが、その名詞形 **adduction** (手足などの内転)は医学専門用語である。**advantage** (利益)は **vantage** (優勢)を **ad-**で強めた単語。

**aero-** (“空”の意味の接頭語)

日本でもなじみのある接頭語である。

**aerospace-medicine** 宇宙航空医学

**aeroplane** 飛行機

**aerobiology** 航空生物学

**after-** (“後”の意味の接頭語)

**afternoon** 今更と思われるかもしれないが、接頭語としての **after** が再認識させられる。

**afterwards** 後ほど

**aftermath** 災害などが起こった直後をさす名詞

**agr(o)-** (“農”の意味合いの接頭語)

**agronomical** 農業経営の

**agriculture** 農業

**agrobiology** 農業生物学

**agrochemistry** 農芸化学

**all-** (“すべて”の意味の接頭語)

**all-around** (**all-round**) 日本語の日常会話でもよく耳にする。例えば、受験界で **all-around** な実力をつけなければならないとか。**all-around education** 全人教育

**always** 勿論よく知られた“常に”

**ana-** (“離、逆、再”の意味合いの接頭語)

**anabolism** 同化

**anachronism** 時代錯誤

**anatomy** 解剖学。対象を細かく分離することが関係している。

**anaphylaxis** アナフィラキシー。**phylaxis** は予防の意味なのに接頭語 **ana-**が付くことによって、逆に症状を発症する様子をうかがわせる。

**alb-** (“白”の意味の接頭語)

次のような意外と“白”が共通した意味合いの単語がすぐに挙がる。

**albumin** アルブミン、これは卵白など白い蛋白質が語源となっている。

**album** アルバム、白い地に貼り付けることから出来た表現。

**albino** アルビノ、これはマウスなどでいわれる。

**ambi-, amphi-** (“両方”の意味合いの接頭語)

**ambiguous** (どちらともとれる)

**ambivalent** (相反する)

**amphibian** 両生類は水中と陸上の両方に生息する意味で、分かりやすい例である。

**amphibious** (両方の)の関連の名詞がこの両生類である。

**angio-** (“血液”の意味の接頭語)

“血液”の意味がこめられている **angiology** (血液学) や **angiotensin** (アンジオテンシン) などがよく知られている。

**anim-** (動きのある意味の接頭語)

**animal** 動物

**animation** アニメーション、これらは容易に理解できる。

**animism** (物活信仰) これも大変興味深い。

ちなみに **animo** はスペイン語で、“頑張って”の意味である。

**ante-, anter-** (“前”の意味の接頭語)

“前方の”という意味の **anterior** が分かりやすい。スペイン語の **antes** は“以前”の意味で、副詞である。

**antecedent** 前例, 先行

**antenatal** 出生前の

**anthro-** (“人間”の意味の接頭語)

**anthrogeography** 人類地理学

**anthropoid** 類人猿の

**anthropology** 人類学

**anthropometric** 人体測定の

**anti-** (アンチは日本語化されている“反対”の意味の接頭語)

医療、薬学系では抗原、抗体の **antigen**, **antibody** が教えるのにわかりやすい。

**antarctic** 南極, **arctic** (北極) に対極するのが南極の意味

**antibiotics** 抗生物質

**antiseptics** 抗菌剤

**apo-** (“離”の意味の接頭語)

**apothecary** はやや古風な響きのある“薬剤師”の意味。医薬分業の意味合いがこめられているか否かは今後検討したい。

**apostle** キリスト教伝道者

**apogee** は遠地点地球から見て軌道上で衛星などが一番遠ざかる点 (最も近づく点は **peri-gee**)

**apoplexy** 卒中で **plexy** は **strike** の意味



**aqua-** (“水”の意味の接頭語)

仏様に供える**水**などをのせておく棚である梵語の**闍伽**棚の**闍伽**と同語源という。

インドから西に伝わり欧米で **aqua** となり日本に入った接頭語である。その一方インドから中国を経て日本に入ってきた**闍伽**である。地球を一周した点が興味深い。

**aqualung** アクアラング

**aquamarine** 宝石のアクアマリン

**aquarium** 水族館

**archa-** (“古い”意味合いの接頭語)

アーケア古生物, 古代ギリシアのアルカイック・スマイル古典の微笑, 考古 **archaeology** などに含まれるアーケアはすべて “古い” の意味合いである。

**archaeobacteria** (古細菌) も大切な用語。

**astro-** (“星”の意味の接頭語)

**asteroid** 星状の

**asterisk** \*印

**astronomer** 天文学者

**astronomy** 天文学

**astrophysics** 宇宙物理学

**audio-** (“耳, 音”に関係した接頭語)

**audio-video** いわゆる AV

**audition** 聴覚, オーディション

**auditorium** 聴覚室というよりは講堂

**auto-** (“自”に関係した接頭語)

**autoinfection** 自家感染 (多細胞の寄生虫では4種類のものに認められる)

**autobiography** 自叙伝

**archi-** (“アーチ型をした”意味の接頭語)

**archipelago** (群島の) は我々の暮らす日本列島が分かりやすい。

## B

**back-** (“後ろ”に関係した接頭語)

日本語化されている英単語も少なからずある。

**backbone** 背骨

**background** 背景

**be-** (名詞の最初に付いて関連の他動詞を作り出す接頭語)

ドイツ語では珍しくないが、英語では古風な響きのある単語がある。

**bewitch** 魔法にかける

**befriend** 味方する

**bene-** (“良い”意味の接頭語)

**bonus** も同じ語源

**beneficial** 有益な

**benefit** 恩恵

**bi-** (よく知られた“2つ”の意味の接頭語)

2つの意味が生きている **bimetal**, 自転車の **bicycle**, **bilateral** (両方向) が学生に分かりやすい。

**biceps** 二頭筋

**bicoastal** アメリカの東西の海岸

**biennial** 二年間続く, (植物で) 2年生の

**binary fission** 二分裂 (寄生原虫, 例えばトキソプラズマなどで出てくる)

**bisexual** 両性の

**bio-** (日本語化している接頭語バイオ)

身近な例に **biochemistry** や **biology** があるが, あまりに身近過ぎて説明は不要である。

バイオは現代の日本ではいうまでもなくごく日常的な語である。

**biopsy** 生検

**biosynthesis** 生合成

**brachy-** (“短い” 意味の接頭語)

少し珍しいが, 次のような語が理解される。

**brachy-facial** (短顔, 広顔)

**brachy-morphic** (短型の)

**brady-** (“ゆっくり” の意味の接頭語)

原虫トキソプラズマの増殖の段階で, 増え方がゆっくりであるものが **bradyzoite** と呼ばれる。これは“緩増虫体”と訳されている。

## C

**cardio-** (“心臓” の意味の接頭語)

**cardio-vascular** 心脈管系

**cardiology** 心臓学

**cata-** (“下る” 意味合いの接頭語)**catabolism** 異化作用**catastrophe** 破局**catalysis** 触媒作用**centi-** (“百” の意味の接頭語)**century** 世紀**centigrade** 温度の摂氏**centipede** ムカデ**chrono-** (“時間” の意味合いの接頭語)**anachronism** は上述**chronology** 年代学**chronicle** 年代記**chromo-** (“色素” の意味の接頭語)**chromosome** 染色体, -some は “体” の意味**cine-** (“映画” の意味の接頭語)**cinema** 映画**cinerama** シネラマ**circ-** (“円” と関係のある接頭語)**circle** サークル**circulation** 巡回**circus** サーカス

**circum-** (“周辺”の意味の接頭語)

次の例をみると、共通の意味合いが感じられる。

**circumcision** 環状切除術

**circumstance** 状況

**circumvent** 迂回する。

**co-, con- (com-)** (“共”の意味の接頭語)

**Concord** (超音速機) はイギリスとフランスによる共同開発の飛行機である。長年両国は互いにしばしば対立関係ないしは戦争という苦難な時代をくぐり抜けてきた。百年戦争、植民地争奪戦も然りである。しかし二度の大戦は運命を共にした。そのような歴史の時代を経ていよいよ平和共存を求める段階に入ったといわれる。文字通りの意味は共和, **concord**。この接頭語に始まる英単語はわれわれが日々多数見かける。辞書に示されている“生まれつきの”という意味の形容詞である **congenital** なども典型例であろう。それは、生まれることと共に (**con-**) の意味で, **gene** (下記参照) なども想起される。**coitus** (性行為) はどうであろうか。“共に”が生きている単語である。

**company** (会社とはもともとは食べるパンを共にする利益共同体) もある。

**conspire** (共謀する, 協力する) にも接頭語が生きている。

**companion** は飲食を共にする意味の職種, 日本語のホステスはこれに近い。

英語の **hostess** は **host** 主催者の女性形名詞である。これは **host family** から理解される。国が違おうと、語感のズレはこのようなところにも見られる。その他, **contemporary** (時と共に, 即ち同時代の), **-tempo** は“時”の意味で, 外来語のテンポが速いとか, 遅いとか言うテンポと類似する。スペイン語での **tiempo** はまさしく“時”の意味である。Yo no tengo tiempo. “私には時間がない”といったスペイン語表現をよく耳にする。

**contra-** (“反対”の意味の接頭語)

スペイン語では英語の **against** のように、対抗の意味の前置詞である。**contrary** 反対の, **contradiction** 反対 (単語の後半の部分は述べる意味), **contraverse** 対偶 (単語の後半の部分は行く意味) などとはとても重要な単語。

**counter-** (“対”の意味合いの接頭語)

“反対”のような強い意味合いは少なくとも次の例には感じられない。

**countersign** (トラベラーズチェックなどの) いわゆるカウンターサイン

**counterpart** 片割れ, 相棒

**cross-** (文字通り “クロス”の意味の接頭語)

**cross-cultural** 異文化交流の

**cross-section** 横断面切片, これに対して縦方向の切片は **longitudinal section** という。

**cross-word** いわゆるクロスワードパズル

**crypt-** (“隠れた”意味の接頭語)

**cryptococcus** 鳥類に寄生する真菌類の一種 日和見感染が問題

**cryptosporidium** 寄生原虫の1種クリプトスポリジウム

**cryptogam** 隠花植物 ⇔ **phanerogam** (顕花植物) **phanero** は下記に述べるように “明らかな”の意味である。

**cryptogenic** 病気の原因が不明の

**cryptocrystalline** 隠微晶質の (岩石鉱物学の用語)

**D****de-** (“欠”の意味の接頭語)

例として **debility** (衰弱) に注目する。能力 (**ability**) の「欠損」しているこ

とが **de-** で示されている。これなら **debility** の意味も理解しやすい。以下の例も同様である。

**deface** 表面を見にくくする

**decaffeinate** カフェイン抜きのコーヒー

**defame** 名誉毀損を学生たちが理解するために、誰でも知っている **famous** の名詞形 **fame** もよく認識しておいてほしいと思う。

**dementia** 痴呆, 後半は **mentality** の意味, それが欠損しているのが語源

**deoxy-** DNA ではあまり意識しないが, RNA から酸素原子がひとつ取れた **de-oxyribonucleotide** のことである。

**deprive** 奪う

**deprivation** 没収

**detach** 引き離す。取り付ける意味の **attach** とあわせて考察すると分かりやすい。

**deca-** (“十” の意味の接頭語)

**decade** 10年

**decagon** 10角形

**Decalogue** モーセの十戒

**Decameron** 『デカメロン』十日物語

**deci-** (“十分の一” の意味の接頭語)

**deciliter** 100 ml のこと

**decimation** 十進法

**demi-** (“半分” の意味の接頭語)

**demigod** 半神半人

**demisec** (ワインなどが) 中辛の

**demitasse** 食後のコーヒーの小カップ

**demi-ownership** 2人で折半などして不動産等を所有していること

**demo-** (“人”を意味する接頭語)

**democracy** はよく知られた民主主義 (人々+政治)

**demography** は人口学, **graphy** は描くことである。

**dextro-** (“右”の意味の接頭語)

**dextro-position** 右位

**dextrose** 右旋糖

**dia-** (“横断”の意味合いの接頭語)

**dialysis** 透析

**dialect** 方言

**dialogue** 対話

**diameter** 直径

**diaphragm** 横隔膜

**diagonal** 対角線

**di-** (“2つ”の意味の接頭語)

**dilemma** 板ばさみのジレンマ

**distoma** ジストマは現在ではあまり耳にしなくなった用語であるが、もともとは“2つの口”の意味である。

**disulphide** 二硫化物硫黄のS-S結合したもの

**dis-, dys-** (“打ち消し”の意味の接頭語)

このことはよく知られている。**ease** (楽) を打ち消す **dis-ease** が「病気」で



あることがおのずと理解される。その他, **discover** (覆い cover を取っ払って, 発見がなされる) や利益を打ち消した **disadvantage** も分かりやすい。医療上で大切な単語のひとつは **dysfunction** (機能不全) であろう。これも新入生に教える。

**double-** (“二重の” 意味の接頭語)

- double-standard** 二重の基準
- double-space** ダブルスペース
- double-negative** 二重否定
- double-deckered bus** 二階建てバス

**down-** (“下” の意味の接頭語)

- downtown** 下町
- downstairs** 階下
- download** 完全な “日本語” ダウンロード

**dorso-** (“背側” の意味の接頭語)

寄生虫学にも出てくる専門用語 **dorsal cord** (背索) は線虫類の構造理解には必須の term のひとつである。

- dorsiduct** 背面に向く

**E**

**eco-** (“家” を意味する接頭語)

- ecology** 生態学
- economy** 経済学
- ecotourism** いわゆるエコツーリズム (環境の大切さを再認識する旅の思想)

**ecto-** (“外” の意味の接頭語)**ectoenzyme** 表面に局在する酵素**ectoparasite** 外部寄生虫 ⇔ **endoparasite** 内部寄生虫**electro-** (“電気” の意味の接頭語)**cardio-electro-gram** 心電図**electro-microscope** 電子顕微鏡**endo-** (“内の” を意味する接頭語)

**endo-peptidase** は内側を切り離す酵素活性を示すペプチダーゼである。**endemic** は人々 (**demic**) の間に伝染病などが浸淫していることを表す。学生の間で時に誤解があるが、**endo-**は断じて末端の意味ではない。

**epi-** (“上” の意味の接頭語)

**epidemiology** がどうして「疫学」になるかは若干初級の学生たちに説明を要する。**demic** の部分は「人々」であることを確認せねばならない。民主主義の **demo-cracy** が分かりやすいであろう。これと漢字表現の字面が似ているせいか、世間一般にはときに間違えられる「免疫学」は、医療人なら誰でも知っている **immunology** である。英語表記では全く異なるものであるから、英米人の間では混同は全くない筈だ。

**epimastigote** これは専門的であるが、原虫トリパノゾーマの発育の1段階“上鞭毛期”をさす。

**epithelium** 上皮、皮膚科学でよく出てくる。

**equi-** (“同じ” 意味の接頭語)**equation** 方程式 (左右が同じところから)**equiator** 赤道 (南極と北極から等距離にあると学生に教える)

**Euro-** (“ヨーロッパ”の意味の接頭語)

**Euro-tunnel** ユーロトンネル

**Euro-africa** ユーロアフリカ

**ever-** (“常”の意味の接頭語)

**everlasting** 永続の

**evergreen** 常緑

**eu-** (“正常”の意味の接頭語)

次の2例は **dys-**と対にして理屈で以て理解出来るし、又記憶の助けとなるものである。

**eupepsia** (正常消化) ⇔ **dyspepsia** (消化不良),

**eupnea** (正常呼吸) ⇔ **dyspnea** (呼吸困難)

**eubacteria** 真正細菌

**ex-** (“外の” “以前の” 意味でよく出てくる接頭語)

**exo-**の関連でもある。前大統領 **ex-president** などが好例。

**exo-** (“外の” を意味する接頭語)

**exo-peptidase** は外側から切り離すペプチダーゼである。

**extra-** (“外れた” 意味の接頭語)

**extraordinary** についてこの分解だと分かりやすい。高校時代に強引な機械的記憶を試みたことを思い出す。

## F

**fauna-** (“動物相”を意味する単語の部分)

これは厳密には接頭語とは言えないかもしれない。すぐ下の *flora* との関連で、あえて比較のつもりで掲げた。

この語は森林と牧畜の神である *Faunus* (ラテン語) が語源という。faunal, faunally のような形容詞形も理解できる。

**fila-** (“糸状”の意味の接頭語)

一般によく知られてきたのは電球のなかのフィラメント **filament** のように、細長いものをさす単語の接頭語となっている。ただ現在の学生たちにはピンと来ない話かもしれない。ここでは、犬を飼育している人たちに関心のある寄生虫フィラリア (日本語では糸状虫という) をとりあげる。その形からして **filaria** フィラリアとなる。いわゆるフィラリアが見つかるのは、イヌ (犬) に限ったことではない。ヒトに感染するフィラリアの種が、他にも 10 種類近く地球上、主に熱帯・亜熱帯地域に存在する。

犬フィラリアも実はヒトに感染することがある。感染が成り立つ 3 要因は一般に「感染源, ルート, 感受性」といわれる。感染幼虫を保有している蚊がヒトを刺して仮にその幼虫が注入されても普通は感染が成り立たない。それはその人の感受性の問題である。成立・不成立は免疫力が低下しているか、体質によるといわれる。

しかし、成立した場合でも、成虫へと発育するケースは極めて稀である。教科書の記載によると、幼若虫以上にはなれないで、皮下、肺組織などに迷入する。やはり糸状にひよる長い。

**for-** (“禁”の意味の接頭語)

**forbid** 禁止する。

**forget** (獲得する反対の意味で) 忘れる。

**fore-** (“前”の意味の接頭語)

**forehead** 額

**foresee** 予見

**full-** (“最大限”の意味の接頭語)

**full-time** フルタイム

**full-fledged** (十分に羽毛が生えそろった意味から) 一人前の

**flor(a)-** (“花または植物”の意味の接頭語)。

学術では、植物相を *flora* というが、細菌叢の意味でも使う。動物相は上記の *fauna*。アメリカの Florida 州はもともと花や植生の豊かなところである。イタリアの花の都フローレンス *Florence* や、ルネッサンス期のベネチア派画家テッチアーノが描いた美しい女性の肖像画 *Flora* の意味もおのずと理解できる。

## G

**gastro-** (“口や胃”の意味の接頭語)

**gastro-graphy** (胃造影) や **gastro-intestinal** (胃腸の) が典型例。 *guest* はもと“食客”の意味、ドイツ語 *Gast* も客の意味であるが、比較的安価な宿 *Gast-hof* も興味深い。

**geo-** (“地”の意味の接頭語)

**geography** 地理学

**geology** 地学

**grand-** (“大”の意味の接頭語)

**grandpiano** グランドピアノ, **toypiano** (おもちゃの小さなピアノ) という

語もある。

**grandtour** 大旅行

**gene-** (“生み出す”ことと関係のある接頭語)

遺伝子 **gene**, 世代 **generation** などを見ればこのことが改めて推察される。実際そのような意味合いで、接頭語をなしている例が多数見られる。

**gynaeco-** (“婦人”の意味の接頭語)

例えば、婦人科学は **gynaecology**。産婦人科は厳密には産科・婦人科の二つをひとつにした用語で、英語表現 **obstetrics and gynaecology** のそれぞれに対応している。

## H

**half-** (“半分”の意味の接頭語)

**halfbaked** 生焼きの

**halflight** 薄明かり

**he-** (“雄”の意味の接頭語)

**he-goat** 雄山羊

**he-lion** 雄ライオン

**hemi-** (“半分”の意味の接頭語)

**hemicycle** 半円形

**hemisphere** 半球

**hemo-** (“血”を意味する接頭語)

**hemo-lysis** 溶血は実に理解しやすい。赤血球 **hemoglobin** は学生たちにもよ

く知られた単語であるが、彼らには **globin** の部分にも改めて注意を喚起してもらいたいところである。グローバル (**global**) 化ならよくわかる。グローバリゼーション **globalization** の方が分かりやすいかもしれない。要するに地球のような“丸み”を想像してほしいと学生に教える。

**hematite** 赤鉄鉱

**hematology** 血液学

**hemophilia** 血友病

**hemo-lymph** 昆虫の血体腔に流れる血リンパ液

**hetero-** (“異なる” 意味の接頭語)

**hetero-geneous** (異質の) その逆は、下記にある勿論 **hetero-genous** (同質の)

**heterotopic** 異所の

**hier(o)-** (“神聖” の意味の接頭語)

次の単語には神聖な意味合いがこめられている。

**hieroglyph** ヒエログリフ

**hierarchy** ヒエラルキー

**hippo-** (“馬” の意味の接頭語)

**hippo-potamus** 河馬 (字面どおりには“馬河”で日本語ではひっくり返しである)。**potamus** は河の意味 (後述)。

**hippurate** 馬尿酸塩

**hippuria** 馬尿酸症, 馬尿酸尿

**hippuric acid** 馬尿酸

**holo-** (“完全” を意味する接頭語)

**holocaust** 大虐殺

**holoenzyme** 補酵素と結合して活性を示すようになった酵素

**holomyarian** 線虫の断面の構造で筋肉のタイプ分けに使われる用語

**homeo-** (“同一の” 意味の接頭語)

**homeopathic** 類似 (同種) の療法 **homeopathy** (病歴に似た作用を起こす極微量の劇薬物を投与する治療法) に注目したい。

**homeostasis** ホメオスタシス 恒常性

**homeothermal** 恒温動物

**home-** (“家庭, 故郷” の意味の接頭語)

**homeland** 故郷

**homeless** ホームレス

**home-made** 家庭で作られた

**home-run** (**homer**) ホームラン

**homeschool** 在宅教育の

**homestay** ホームステイ

**home-spun** (家庭で紡いだような) 素朴な

**homework** 宿題

**homo-** (“均一の” 意味の接頭語)

**homogeneous** (同質の) の動詞形は **homogenate** である。

**homo-typic** (分裂が同型), その形容詞形 **homeo-typic**

**hydro-** (“水” を意味する接頭語)

**hydrant** 消火栓

**hydrocarbon** 炭化水素

**hydrocephaly** 水頭症 (寄生原虫のトキソプラズマの先天性4大徴候のひとつ)



つとして教える)

**hydrochloric** 塩酸

**hydroelectricity** 水力発電

**hydrocortisone** ヒドロコチゾン 水酸基のあることから

**hydroplane** 水中翼船

**hydrophyte** 水生植物

**hydrogen** 水素

**hydrosphere** 水圏

**hydrangea** 紫陽花 (アジサイ)

**hyper-** (“超”を意味する接頭語)

日本語化されていて分かりやすい。

**hyper-acid** 胃酸過多

**hyper-activity** 活動過多

**hypo-** (“下”の意味の接頭語)

**hypothesis** 仮説 (論説の下地をなすもの), 偽善者 **hypocrite**

I

**ill-** (“病”の意味の接頭語)

極めて分かりやすい連結辞である。

**ill-being** 不幸, 病弱 ⇔ **well-being** 幸せな状況

**ill-bred** しつけの悪い

**ill-natured** 気難しい

**in-** (“中へ”の意味の接頭語)

**induce** 誘起する

**inhale** 吸い込む

**insight** 洞察

**insist** 主張する

**inspire** 吸気, 反対語は **expire** 呼気

**intrude** 侵害する

**in-** (打ち消しを意味する接頭語)

薬学にふさわしい典型的な例は無機化学 **in-organic chemistry** だ。打ち消しの **in-**, これに関する例は多い。あまりに例が多いので、代表例のみにとどめた。

**insul-** (“島”の意味の接頭語)

**insulin** インスリン, これは膵臓のランゲルハンス島でつくられる。

**peninsula** **pen** はほとんどの意味, すなわち半島は“ほとんど島”の意味から。

**inter-** (“間の”を意味する接頭語)

最も分かりやすい例の一つは **inter-national**, これは論を要さない。生物の分布で **inter-specific distribution** といえは種間分布のことである。

**infra-** (“下”の意味の接頭語)

**infra-structure** インフラストラクチュア (いわゆるインフラ), これも日本語になっている。“インフラの整備”などとよく耳にすることや目にとまることの多い表現であるが, 原義を少しでも思い出すと分かりやすい。

**intro-** (“中へ”の意味の接頭語)

**introduction** 序論

**is-** (“同等”の意味の接頭語)

**isoenzyme (isozyme)** アイソザイム

**isosceles** 二等辺三角形

**isotope** アイソトープ

**intra-** (“内の”意味の接頭語)

**intra-specific distribution** は生物種の種内分布である。

**intravascular** 脈管内の

## J

**just-** (“正しい”意味合いの語幹であって、接頭語とは言いがたい)

**justice** 司法

**justify** 正当化する

**justification** 正当化

**juxtra-** (“近傍の”意味の接頭語)

このことは泌尿器科医の著したテキストに示されている<sup>2)</sup> “関節**近接**の”  
**juxtra-articular** “腎糸球体**近接**の” **juxtra-glomerular** などが例として挙げられている。

## K

**kilo-** (“千 (1,000)”の意味の接頭語)

Jと並んでKの接頭語もなかなか見つからなかった。

**kilo-gram** とか **kilo-meter** がすぐに思い浮かぶ。これらはあまりに日常的であるが、むしろ **kilo-**の意味を我々は忘れがちなのではないだろうか。前後関係から、重さかスピードのことかわかるから意識が及ばないのであろうが、やはり時には「千 (1,000)」の原義を認識する必要があるだろう。

## L

**leuko-** (“白血球”に関連した接頭語)

白血球 **leuko-cyte** は低学年の学生にはまだなじみの薄い語彙かもしれないが、是非ともこの接頭語を教えておきたいと思う。ついでに、白血球減少症の **leuko-penia** も。赤血球 **erythrocyte** とともに白血球の英語も学生は記憶せねばならない。

**litho-** (“石”の意味の接頭語)

**lithosphere** 岩石圏

**lithogenesis** 結石形成 **genesis** は勿論生み出されること

**lithograph** 石版印刷

## M

**macro-** (“大きい”も日本語化されている接頭語のひとつ)

貪食細胞の **macrophage** は医療系の必須専門用語である。

**man-** (“人”の意味の接頭語)

**man-made** 人造の

**manslaughter** (計画的でない、事故による) 殺人

**manpower** 人力

**mani-** (“手”に関連した接頭語)

**manipulate** 操作する

**manual** マニュアル

**manufacture** 手工業

**manuscript** (もともとは) 手書きの原稿

**manage** なんとかやり遂げる (もとは手で馬などを御すること)

**mandate** 統治を委任する

**matri-** (“母”の意味の接頭語)

**matricide** 母親殺し, 昔のローマ帝国の暴君ネロの行為がよく知られている。

**matrix** マトリックス, もとの意味は“母体・基盤”

**mal-** (“悪い”意味の接頭語)

**mal-aria**(マラリア), ついでに **mal-nutrition**(貧栄養状態), **mal-adey**(病気), **mal-practice**(医療過誤)も教える。**mal-aria**の **aria**はイタリア語の“空気”の意味で, まだその原因が解明されていなかった昔, 悪い空気のところ, マラリアになると信じられていた。よく知られた病名であるが, 分解してみると, 昔の時代の余波を感じさせるものである。インドでは既にグプタ朝の時代に, マラリアは蚊の刺咬により感染することが知られていた。古代インドの科学の水準の高さを示す好例のひとつである。

**mass-** (“大量の”意味の接頭語)

これもよく知られている。

**mass-acre** 大量殺戮

**mass-communication** マスコミ

**mass-production** マスプロ授業

**mast-** (“肥満”に関係した接頭語)

**mast cell** 免疫の肥満細胞

**mastectomy** 乳房切除術

**mega-** (よく知られた“大”の意味の接頭語)

これも日本語化されている。**megapolis** メガポリス, あえていえば **megacity**

のような巨大都市。

**meso-** (“中”の意味の接頭語)

**Meso-potamia** “川 potamia の間”が文字通りの意味。いわゆるメソポタミア文明は、学校で習うように、チグリス・ユーフラテス川の間で栄えた。

**mesoderm** 中胚葉

**mesoderm** 中皮膚

**meta-** (“後・上”の意味の接頭語)

**metaphysics** 形而上学。専門的ではあるが、**meta-cercaria** は **cercaria** の後の段階の寄生虫の幼虫。

**mid-** (“間”の意味の接頭語)

**midwife** 助産婦

**milli-** (“千分の1”の意味の接頭語)

**millimeter** 文字通りミリメートル

**millipore** フィルターでよく知られているミリポア

**mini-** (“小さい”の接頭語)

たくさん造語される。なかには和製英語も存在する。

**minibar** ホテルの部屋でなじみのミニバー (和製英語かもしれないと心配になり調べたが、れっきとした英単語である)

**minicar** 小型自動車

**miniture** 縮小版

**mis-** (“欠失”の意味の接頭語)**misunderstand** 誤解する**mismatch** いわゆるミスマッチ, 不適合**misspell** まちがった綴り**misprint** ミスプリ**micro-** (よく知られた“小さい”意味の接頭語)

次の例などはいうまでもなく典型例である。

**microbiology** 微生物学**microscope** 顕微鏡**mono-** (“ひとつ”の意味の接頭語)**monocycle** 一輪車**monogamy** 一夫一婦婚姻制**monograph** モノグラフ**monologue** 独り言**monopoly** 専制政治**monorail** モノレール**mito-** (“糸状”の意味の接頭語)**mitochondria** ミトコンドリア, 糸状体**mitosis** 有糸分裂**mitogen** 有糸分裂誘発因子**multi-** (大変よく知られた“多い”意味の接頭語)例えば, 日本語になっている **multi-media** マルチメディアがわかりやすい。**multilateral** (多方面にわたって) も大切。

**N**

**necro-** (“破壊”の意味の接頭語)

これを教えるとき、**necrosis** (壊死)のみならず、**necropolis** (廃墟の都市)も示したほうがわかりやすいかもしれない。

**nucle-** (“核”の意味の接頭語)

世間一般と違い、医学薬学の分野では核酸の連想が先立つ。

**nucleus** は細胞の核 (複数形は **nuclei**)、その中の核小体 (昔は仁と呼ばれた) は **nucleolus**

**non-** (勿論 “打ち消し” の意味の接頭語)

**non-fiction** ノンフィクションなど日本語化されている。

**neo-** (“新しい” という意味の接頭語)

**neonatal** 新生児の

**neo-romanesque** ネオロマネスク

**O**

**ob-** (“対象”の意味合いがある接頭語)

**object** 対象, 目的物

**obstetrics** 産科学。後半の **stetrics** は立ちあいの意味がこめられている。ヨーロッパの王朝では王妃の出産の場面に産婦人科医 **obstetrician** はじめ証人たちが立ち会ったという。この習慣と伝統がなかったオーストリアのハプスブルク家からフランスに嫁いだマリーアントワネットはこれに馴染めなかったらしい。



**octo(a)-** (“8”の意味の接頭語)**octagon** 8角形**octave** オクターブ (これはよくわかる)

**October** 10月 (**October** は文字通り元来なら“8月の月名”であった。ところが古代ローマで、ジュリアス・シーザーの **July** と **August** の2つが後から加わったというか割り込んだので、本来8月である筈の名称 **October** は10月の名称にずれ込んだ。独裁者らしい仕業の結果である。しかし、このことを初めて知った新入生は感激する。)

**octopus** タコ (蛸) やはり足が8本**off-** (“分離”の意味の接頭語)**offseason** 季節はずれ**offset** 印刷用語のオフセット**offspring** 子孫**oligo-** (“少ない”意味の接頭語)**oligo-peptide** 構成するアミノ酸の数の少ないペプチド**omni-** (“全体の”意味の接頭語)**omnibus** 方式の授業, 日本語ならさしずめ“乗合バス方式”であろうか。**omni-present** はどこにも存在する意味で **ubiquitas** とほぼ同義。**onco-** (“球形または癌”の意味の接頭語)**oncology** 腫瘍学**oncosphere** 球形の幼条虫 卵内の幼虫

**ortho-** (“正しい” 意味の接頭語)

これに続いて、**meta-**には「後」とか「次」または「上」の意味があるが、高校時代の有機化学ではどの程度意識したであろうか。“オルト，メタ，パラ”と口調のよかったのを思い出す。

**orthodontics** 歯列矯正

**orthodox** 正統

**orthopedics** 整形外科

**over-** (“過剰” の意味の接頭語)

**overestimate** 過大評価する

**overwork** 働き過ぎ

**out-** (“外の” 意味の接頭語)

これも日本語化されている。これはホテルの **check-in**, **check-out** で馴染みがある外来語としてのインとかアウトは短くてポイントを押さえている。

**outdoor** 戸外の

**outline** 外形, 概略

**outstanding** 際立った

**outsourcing** 外部委託

**P****paleo-** (“古い” 意味の接頭語)

**paleobiology** 古生物学

**paleoparasitology** 考古寄生虫学

**pan-** (“全・汎” を意味する接頭語, 偶々発音も類似している)

**Pan-american** 全米の

**pandemic** 大流行の

**para-** (“並行”の意味の接頭語)

その口調のよいパラである。これには「並行」, 「併行」の意味がある。化学構造式のパラに加えて, 寄生虫の **para-site** (宿主と寄生虫は常にパラレルで考えたい) や, フランス語ではあるが“雨傘”の **para-plui** もみておきたい。**plui** が雨であることから実に分かりやすい。ついでに **para-sol** 日傘も理解容易である。**-sol** は勿論太陽のこと。

**penta-** (“5”の意味の接頭語)

**pentacle** 五角形

**pentagon** ペンタゴン (アメリカ国防省)

**per-** (“につき”という接頭語)

**per-cent** のもともとの意味は **cent** 百につきであるが, このことは逐一意識しないと思う。**per-haps** (おそらく) の原義は“偶然につき”であるが, これは更に一層のこと, 意識しないであろう。

新入生に, 名詞 **hap** (偶然, 運) の動詞形が **happen** (起こる) で, 形容詞形が **happy** (述べるまでもなく“幸せな”), **hap-less** (不運な) であることを説明すると, いつも感激する者が現れる。その反応に, 実は教える側も感激する。

**pharmaco-** (“薬学”の意味の接頭語)

**pharmacognosy** 生薬学

**pharmaco-dinamics** 薬力学

**pharmacology** 薬理学

**phil-** (“愛” の意味の接頭語)

**philosophy** 哲学だがもともとは知を愛する意味から来ている。従って PhD の直訳は“哲学博士”であるが、やはり“学術博士”と訳するのが妥当であろう。

**Philadelphia** アメリカのフィラデルフィアという地名は、もともと“兄弟愛”の意味であるとよく説明を受ける。

**phanero-** (“明らかな” 意味の接頭語)

**phanero-crystalline** 顕晶質の(肉眼で分かる大きな結晶についての専門用語)

**phanerogam** 顕花植物

**phanerogenic** 病気の原因が明らかな

**phon-** (“音” の意味の接頭語)

**telephone** が一番分かり易い。ただし、この場合は接尾語になる。

**phonogram** 表音文字

**phonology** 音韻学

**phot-** (“光” の意味の接頭語)

**photochemistry** 光化学

**photosynthesis** 光合成

**photograph** (いうまでもなく) フォトグラフ

**physi(o)-** (“物, 生理” の意味の接頭語)

**physiology** 生理学

**physics** 物理学

**peri-** (“周囲の”を意味する接頭語)

**peripheral** 肛門周囲は **peri-anus** その形容詞形は **peri-anal** (肛門周囲の)

**perianal examination** 蟻虫 (ギョウチュウ) の肛門周囲セロファンテープ検査

**platy-** (“平たい”意味の接頭語)

まず一般的な表現から述べる。

**plateau** 台地, プラトー

**platform** 駅のプラットホーム

次に医学薬学系の専門用語の例を示す。

**platysma** 広頸筋

**platyhelminth** 扁形動物のことで吸虫類と条虫類が主要をなす, 体形がいずれも扁平

**poikilo-** (“色・形の変化のある”意味の接頭語)

**poikilo-cyte** 変形赤血球

**poikilo-thermal** 変温動物

**poly-** (“多い”意味の接頭語)

日本語化されている接頭語である。

**polysaccharide** 多糖類

**polyphenol** 日常会話的にポリフェノールこれは抗がん効果があるとされる。

**post-** (“後”の意味の接頭語)

これも日本語化されている接頭語である。

**post-war** (戦後)もそうであるように, 新聞などではまるで前置詞のようによく使われる。見出しに便利な接頭語なのであろう。

**pre-** (“前” の意味の接頭語)

本論文のテーマである **pre-fix** 接頭語のもともとの意味は“前に固定されたもの”。これも日本の日常生活でままたま耳にする。

**preoccupy** 夢中にさせる

**preparation** 前もつての準備

**preposition** 前置詞

**prot-** (“第一，原” の意味合いの接頭語)

**protocol** 原記載

**prototype** 原型

**protozoa** 原生動物

**pseudo-** (“擬似” “疑似” の意味の接頭語)

**pseudo-coel** 擬体腔 (線虫類の体構造の一部)

**pseudonym** 仮名

**pseudoscience** 疑似科学

**psych-** (“心” に関係した接頭語)

**psychology** 心理学

**psychiatry** 精神医学

**pro-** (“前” の意味の接頭語)

前進のための **pro-peller** プロペラは興味深いと思った。幼児のときから馴染んでいる言葉の本当の意味がわかる瞬間は大学生になってからというのは決して稀ではない。ついでに **ex-pel** 排除する意味もよくわかる。ex-は外へ，pel は移動の意味である。

**procaryotes** 原核生物 ⇔ **eucaryote** 真核生物

**profess** は人前で話すこと, **professor** はそのような職業活動をする者, 教授である。

**prostaglandin** プロスタグランジン

**protozoa** 原生動物

**pyro-** (“熱” を意味する接頭語)

**pyrogen** 発熱物質

**pyrolysis** 熱分解

**pyromania** 放火狂

**pyrotechnics** 花火の打ち上げ, 華々しさ

## Q

**quadr-** (“4” の意味の接頭語)

むしろ日常的に知られた四角形 **quadrangle**, 正方形 **quadrant** をあげておくのがよいかもしれない。やや難しいが, あえて化学分野の専門用語をあげようと探した。四環性の脂環式炭化水素の一つであるクアドリシクラン **quadricyclane** や多重極子の一つである四極子 **quadrupole** が見いだされた<sup>2)</sup>

**quarantine** は隔離する (動詞), 名詞では検疫隔離期間。「感染者はできるだけ速やかに隔離すべきである」。The infected cases should be quarantined as soon as possible. などの表現に出てくる。

検疫では元々 40 日間停船させたという。勿論現在には当てはまらない。ただし言葉としては生きており, たとえ空港においても使われる単語。

**Quarenta** はスペイン語で 40 の意味。

**quasi-** (“擬似” “疑似” の意味の接頭語)

これはもともとラテン系の接頭語で, 英語なら as if で “あたかも” の意味が込められている。

**quasi-judicial** 半司法的に、

**quasi-cholera** 疑似コレラ

**quasi-war** 準戦争

## R

**radio-** (“放射” の意味の接頭語)

**radian** ラジアン

**radiation** 放射

**radiation** 放射線

**radium** 放射性元素のラジウム (略号 Ra)

**radius** (橈骨)

**re-** (よく知られた “再び” の意味の接頭語)

**remedial education** は大学入学後の再教育、補習教育などでよく使われる表現。

**return** (帰る) がわかりやすい。

**retro-** (“昔に遡って” の意味の接頭語)

日本語でも “レトロ調” などといわれる。エイズウイルスの **retro-virus** は、微生物学・分子生物学の授業で出てくる内容である。ふつうは DNA から RNA への転写が行われるが、それとは逆であることを学生たちは理解してくれているはずである。ただしこれは接頭語としての理解である。

**retro** これ自体、もともとは頭字語である<sup>8)</sup>

**retrospective** ⇔ **prospective** これは是非とも、ペアで学生に教育したい。

**retro-infection** 蟻虫 (ギョウチュウ) の卵はヒトの肛門周囲に産み付けられる。それが孵化して現れた幼虫が同一患者に再感染することをいう。“さかのぼっての感染” である。



## S

**self-** (“自己”の意味の接頭語)

**self-portrait** 自画像

**self-satisfied** 自己満足

**semi-** (“半分”の意味の接頭語)

**semicolon** セミコロンはあまりによく知られた外来語である。

**semiconductor** 半導体

**she-** (“雌, 女性”の意味の接頭語)

**she-cat** 雌猫

**she-goat** 雌山羊

**side-** (“横, 側”の意味の接頭語)

**side-pocket** サイドポケット

**side-table** サイドテーブル

**socio-** (“社会”の意味の接頭語)

**sociology** 社会学

**socio-biology** 社会生物学

**socio-pharmacy** 社会薬学

**step-** (“継”の意味の接頭語)

**step-mother** 継母

**step-child** 継子

**step-stone** ステップストーン, 踏み石

**sinistro-** (“左”の意味の接頭語)**sinistality** 左利き**sinistro-manual** 左利きの**sinistro-cerebral** 左脳半球の**sub-** (“下”の意味の接頭語)

このことは学生たちも何となく知っている。いちいち分解するまでもなく日常語の **subway** 地下鉄やサブユニット **subunit** が分かりやすいかもしれない。潜水艦は **sub-marine** も。やや専門的となるが、**sub-cuticle** (角皮下層) とは表皮である角皮 **cuticle** の“下”に位置する層である。これは医寄生虫学(松山大学薬学部では微生物学)で教わる用語である。線虫類の体壁の構造の理解には不可欠であるが、薬学・歯学の学生には少し難しいかもしれない。

**submission** 提出**subject** 主題, 主語**super-** (“超”の意味の接頭語で、これも日本語化されている)

**supernatural** (超自然的な)。大学によっては職種名で、「スーパー (super) 特任」なるものもある。

**supra-** (“上位”の意味の接頭語)**supranational** 超国家的な**supraorbital** 眼窩上の**suprarenal** 腎臓より上の, すなわち副腎の**supreme** 最高の**sur-** (“上位”の意味の接頭語)**surface** 表面

**surname** 名字

**surplus** 剰余

**surcharge** いわゆるサーチャージ（団体海外旅行などで更に上乗せのような支払い）

**syn-, sym-**（“同じ”意味の接頭語）

**synapse** 神経接合のシナプス

**syndrome** 症状

**symptom** 兆候, 徴候

## T

**techno-**（“技”の意味の接頭語）

**technical** 技術上の

**technopolis** テクノポリス

**tele-**（“遠い”意味の接頭語）

**telegram** 電報

**telephone** 電話

**television** テレビ

**theo-**（“神”の意味の接頭語）

**theology** 神学

**theory** 理論

**tachy-**（“急速な”意味の接頭語）

**tachycardia** 頻脈

**tachypnea** 頻呼吸

**tachyphylaxis** タキフィラキシー（脱感作のうち、特に**急性のもの**）

**tachyzoite** タキゾイトとは**急速**に増殖する寄生原虫トキソプラズマの時期

**thermo-**（“温”の意味合いの接頭語）

**thermo-**ですぐに思い浮かぶものは温度計の **thermo-meter** であろう。あえてハイフン“-”を入れてみた。**thermo-stat** も分かりやすい例だ。

**trans-**（“超える”意味の接頭語）

生命科学でよく出てくる接頭語である。

**transaction** 取引

**transmission** 伝播

**transfer RNA**（転移 RNA）

**transfusion** 移入

**transformation** 変形

**transplant** 移植する

**transport** 輸送する，port は港

**translation** 翻訳

**transcription** 転写

**transparent** 透明の

**tri-**（“3つ”の意味の接頭語）

adenosine-triphosphate（ATP）がよく知られている。

**tri-lateral**（3者間の）は3国間協議などで出てくる。

## U

**ultra-**（“超”の意味の接頭語）

日本語の“超”で置き換えればよいことが多い。

**ultra-conservative** 超保守的

**ultra-violet** 紫外線

**un-** (否定を表す接頭語)

**unhappy** (不幸な) などをあげたら枚挙に暇がない。

**uni-** (勿論“ひとつ”の意味の接頭語)

このことはよく知られているというかむしろ日本語化されている。**uni-versity** や **unit** が好例である。“ひとつ”の意味合いがなぜ「総合大学」?との疑問にあたることもある。「総合大学」であれば、いろいろな分野がひとつの方向をめざして努力すること(真理の探究)を本来意味していると、学生に説明したい。もはや日本語化されている **unique**, **uni-sex** がある。時として和製英語も見受けられる。

**under-** (“下”の意味の接頭語)

**undertake** 「手付ける」もわかるような気がする。

**underwear** これは今や日本語そのものである。

**up-** (“上へ”の意味の接頭語)

**up-grade** いわゆるグレードアップである。パソコンの **version-up** は和製英語である。

## V

**ventro-** (“腹側の”意味の接頭語)

医学の専門用語に出てくる **ventral** は腹側の意味。**ventral sucker** 腹吸盤は吸虫の“口”に似た部分で医寄生虫学の重要な専門用語である。

**ventral chord** 腹索(線虫の索のひとつ)

**vice-** (“副”の意味の接頭語, 悪徳を意味する形容詞とは勿論別)

**vice-president** 副大統領

**vita-** (“生き生きとした”意味の接頭語)

**vitamin** (ビタミン) や **re-vitalize** (再活性化する) が典型的である。

**vitro-** (“ガラスの”意味の接頭語)

ビードロ細工は南蛮貿易の時代, 長崎に伝わった伝統工芸品

**in vitro** 試験管内の

**vivo-** (“生きている”意味の接頭語)

スペイン語で, “私はここに住んでいる”を **Yo vivo aqui.** という。“vivo”は生きる意味がこめられている。英語の形容詞 **vivid** はあざやかな, 副詞 **vividly** は“あざやかに”である。

**in vivo** 生体内の

## W

**well-** (“十分”の意味の接頭語)

**well-being** 幸せなこと

**well-trained** よく訓練された

**welfare** 幸せ (よく行くことが原義)

**well-organized** よく組織された

**well-known** よく知られた

**with-** (“反抗”の意味の接頭語)

**withdraw** 取り消す

**withhold** 留保する

**withstand** 耐える, **notwithstanding** という前置詞も理解できる→耐えられないこと, つまり“にもかわらず”

**whole-** (“全体”の意味の接頭語)

**whole-saler of drugs** 医薬品一般販売業というものが辞書<sup>1)</sup>に出ている。もっとわかりやすいのは文字通り全身の意味の **whole-body** であろうか。 **whole plant** は接頭語というよりはむしろ形容詞であろう。生薬学では, 使用部分が「全草」である意味の英語表現で, 必ず習うものである。

**witch-** (“魔”の意味の接頭語)

**witchhunt** 魔女狩り

**witchcraft** 魔力, これは薬学史の授業で登場する。

**bewitch** (魔術にかける) は上に記した。

## X

**xantho-** (“黄色”の意味の接頭語)

蛋白質の定性反応として用いられるキサントプロテイン反応 **xanthoprotein reaction** は学校時代習う呈色反応だ。

**xeno-** (“外から”の意味がある接頭語)

**xeno-diagnosis** サシガメに吸血させるトリパノゾーマ感染の有無の診断方法, あまり人道的とはいえない。

**xeno-phobia** 外国人嫌い

**xeno-logy** 地球外生物 (SF などに出てくる)

**xylo-** (“木の”意味の接頭語)

**xylose** キシロース

**xylo-phagous** 食材性の（木を食べる意味から）

**xylophone** 木琴（木＋音）

## Y

**year-**（“年”に関係した接頭語）

**year-book** 年報，卒業記念アルバム

**year-end** 年末

**year-ling** 1年子（満1～2歳の動物・家畜），生まれた翌年の1月1日から1年未満の競走馬

**year-long** 1年間続く

**ytter-**（“スウェーデンの地名イェーテボリ”を意味する接頭語）

元素名である **ytterbia** や **ytterbium** があげられる。

## Z

**zoo-**（“動き”のあることを示す接頭語）

ズームレンズは日常的に耳にする。**zoom**を動くものとの認識にたつ学生たちには，動物園の **zoo** とか動物学の **zoology** も語彙的に興味深いのではなかろうか。

**zodiac** 黄道十二宮（何座の生まれであるかを話題とするとき，確かに動物名が出てくる）

**zoonosis** 人畜共通症（動物＋症）

## 終 わ り に

英語の指導も行う職業活動の中で一番の悩みは，学生たちに如何に正確に英単語を覚えてもらえるかということである。そこでその対応策のひとつとして



工夫したのが今回の接頭語の整理である。接頭語を今回あまり厳密に定義づけたものとなっていない。連結要素“連結辞”のようなものも含んでいる。

幸い筆者らはAからZではじまる接頭語の数々の例を挙げることができた。既に日本語化されていて誰でもすぐに思い浮かぶものが多い一方で、本筆者らには容易には例示できないものもあった。勿論これらが接頭語のすべてではなく、今後とも収集すべきものが多々あることは十分認識している。実は現在でもその記述を継続しているが、一応ここで発表することでご専門の先生方のご批判とご助言を賜ることが出来れば幸いである。

ここに記した内容は、直ちに薬学部や歯学部における英語教育の初期段階で利用することが可能であると考ええる。その意味で筆者らの執筆目的は一応達成されたと思われる。例えば薬学部・歯学部の1～2年生を対象に説明するのもよいかもしれない。今回のノートは授業中の時間内に学生たちにマーキングしてもらうにはやや難しいというか、あまりに専門的な英語も含まれている。しかし、これを契機に、それらに対する親しみが増すことが期待される。もっと探してみたいとの意欲が学生の間で湧き出ずれば、授業は成功であったと考える。提出のレポートなどに他の多数の例を書き出させて、評価点をつけるのもよいかもしれない。後は、授業評価を待つことになる。

日本語化されている接頭語が多い印象を受けるが、逆に日本語として知っている接頭語が思い浮かぶ結果なのかもしれない。こういう接頭語から和製英語や和英折衷語が簡単に作られるが、あまり氾濫しないことが望まれる。どこかで効果的で有意義な抑制のルール作りも大事かもしれない。

近い将来、上記の接頭語集をとりいれた講義を実行に移したいと考えている。その前に諸先生方のご意見を拝聴したうえで、更にとりあげる例など吟味を重ねる必要がある。なお接尾語については現在も検討中である。

#### 参 考 資 料

- 1) 編集代表石田名香雄：研究社『医学英和辞典』研究社、東京、(1999)

- 2) 横田真二：素材から見る『からだと病の英単語』－語源中心医用英語の持つ秘密－，南雲堂フェニックス，東京，(1999)
- 3) 編集代表小稲義男：『新英和大辞典』第5版，研究社，東京，(1992)
- 4) 岩崎民平・小稲義男監修：『新英和中辞典』第4版15刷，研究社，東京，(1977)
- 5) 西川盛雄著：『英語接辞研究』開拓社，東京，(2006)
- 6) 大木道則等編集：『化学大辞典』東京化学同人，東京，(1994)
- 7) 牧 純：病と薬を表すことばの成り立ち，新居浜生涯学習大学，松山大学公開講座－ことばで巡る世界の歴史と文化－新居浜市生涯学習センター，8月22日，(2009)
- 8) 牧 純，関谷洋志，渡部真衣，玉井栄治，坂上 宏：接頭語から入る薬学系の英単語のAからZまで(ノート)，愛媛県病薬会誌，通巻110，15-18，(2012)
- 9) 吉田幸雄，有蘭直樹：『図説人体寄生虫学』第8版，南山堂，東京，(2011)
- 10) 渡部昇一：『英語の語源』，講談社，東京，(1977)
- 11) 小西友七・南出康世：ジーニアス英和辞典第4版，大修館書店，東京，(2007)
- 12) 学校法人河合塾：準備シリーズ・英語 語源中心 新方式語彙力拡充法(開講前の必須ガイド・ブック)，(1969)